X・B・S 大河と竜児の場合

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S 大河と竜児の場合

【Nコード】

N6995P

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それは結婚式のスピーチから始まった。クリスマス小説これで終わりだ！！（ダブル風に）

とある豪華結婚式場。そこではひと組の男女が結婚式を挙げている。
その男女は・・・

竜児

「大河、いよいよだな・・・／＼／＼／」

大河

「うん・・・。いよいよあたし達結ばれるんだね・・・」

そしてスピーチ

北村

「それでは夫婦のお二人に一番良かったラブエピソードを語ってもらいましょう」

北村の司会によって式はスムーズに進んだ。

大河

「はい、あれは・・・」

竜児

「あるクリスマスイヴのことでした・・・」

三十路じゆ

「だーもーもー。クリスマスのバカヤローー！！なんでこんな日があんのよーー！！カッパルなんざ絶滅しろーー！！」

12月24日クリスマスイヴ。当時学生である竜児と大河は友人である亜美の家でクリスマスパーティーをしていた。

竜児

「おーし皆。プレゼント持ってきたかー」

全員

「YES!!」

春田

「そんじゃ、プレゼント交換タイムだぜ、イエー」

なんだかんだでプレゼント交換も終わり、次に進もうとした時、

大河

「あ、そうだ。あたし忘れものしたんだ」

ふと大河は忘れものに気付いた。

大河

「竜児、悪いけど、一緒に来てくれる？」

竜児

「ああ、わかった。みんなその間に進めてくれ」

こうして、竜児と大河は亜美の家を出た。

竜児

「ところで、大河」

大河

「何？」

竜児

「お前、忘れものしたっての嘘だろ」

大河

「ギクツ。なんで気付いたの？」

するとその返答は・・・

竜児

「勘」

大河

「勘かい!!」

竜児

「ところで、本当の理由って・・・これだろ？」

竜児はポケットから箱を取り出す。

大河

「これって・・・」

竜児

「言っておくがこれは勘じゃない。俺の想いだ・・・// // //」

大河

「それじゃ、あたしも……」

大河も小さな袋を出した。

竜児

「大河、メリークリスマス」

大河

「メリークリスマス」

こうして二人は、雪空の中、熱い口づけを交わした。

一方その頃……

三十路^{じゆ}

「なんで……なんでナンパすらこないのよー……（泣）
三十路は大声で嘆いていた。

亜美

「はいはい。ごちそうさまでした」

実乃梨

「ロマンチックじゃん。いいなあ、二人とも」

亜美は半場呆れ、実乃梨は目を輝かせた。

北村

「えー、続きまして」「ちよつと待った!!」「へっ!?!」
突如二人が止めた。

竜児

「なあ大河、次は何話す？」

大河

「そうねえ。次は初デートについて話さない？」

竜児

「いいねえ。それって確か、ディズニーランドだったよな」

大河

「うんうん／＼」

竜児

「はしゃいだいる時の大河のあの表情、マジ可愛かったなー」

大河

「やだ竜児ったらー／／／」

竜児

「いいじゃん。ホントの事だろー／／／／」

と式場で次のスピーチについてイチャついてたのだ。とそこに・・・

馬鹿

「ゴルフ！お前ら！！結婚できたからってイチャついてんじゃねえ

ぞー！（怒）」

と結婚できない三十路＋馬鹿が怒鳴った。

馬鹿

「＋馬鹿！？余計なのが加わったよ！！何してくれてんの！？この作者！？ってヴェエエエエ」

亜美

「って、吐くなああああ」

相当酔ってたらしく、馬鹿は退場された。（笑）しかしそれでも竜

児と大河はまだイチャついてた。（笑）

そして、

北村

「それじゃ、ハイチーズ」

こうして、クラス全員と、高須家、逢沢家そして高須夫妻の記念写真が撮られた。ちなみに竜児と大河はもちろんキスをしていた。彼らにとっては幸せなムードに包まれ、一生の思い出になる結婚式に違いない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6995p/>

X・B・S 大河と竜児の場合

2010年12月25日08時51分発行